

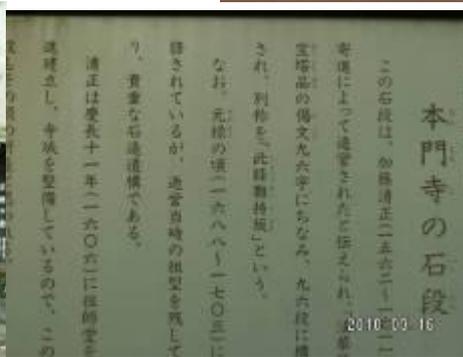
神奈川ウォーキング参加・H22-20

午後スタート 池上本門寺から洗足池へ

- ・日時：平成22年3月16日（火）13:00 東急池上線池上駅集合
- ・コース：池上駅→本門寺→力道山の墓→日蓮の袈裟掛けの松→池上梅園→子安八幡神社→小池公園→勝海舟の墓→洗足池公園<終了ストレッチ解散>16:00→池上駅。12,000歩、約8km
- ・参加者：男7人、女6人、計13人
- ・概要と所感

3月16日（火）天候も小春日和。行事空白日となり、急遽電話で酒井副会長さん宅に参加申し込み。愛妻は以前一緒に行ったことが有ると言う。どうも思い出せない。相手が違うのではないかと言いつつ、いよいよ物忘れで差が出てきたなと思い、パソコンで本門寺調べる。やはり行っていないように思え、この確認の意味を含め、闘志が湧いてきた。溝の口駅始発の大井町線で旗の台駅で池上線に乗り換える。「五反田行き」「蒲田行き」どちらに乗るべきか迷う。持参した地図で調べる、蒲田行で、反対ホームだ。これが又判りにくい、再び大井町線ホームに出る始末。やっと池上線蒲田行きホームに出て、丁度電車来る。次の駅は今日のウォーキング終点「洗足池駅」を確認して一安心。洗足駅を通過して7つ目の駅が「池上駅」。池上線やはり初めての様だ。池上駅到着、改札口前で酒井副会長リーダーから今日の地図を戴き出発。今日の参加13人。男性軍7人で優勢、珍しい。

- ・多摩川の東隣を羽田に向かって流れる「呑川」は水も綺麗になったが、多摩川河口の取り締まりが厳しくなり、呑み川河口は不法船の溜まり場になっているとの事。本門寺に向かって左側に中道院・池上観音堂・本成院・理境院、右側に常仙院・本妙院とお寺が多い。総門を潜ると加藤清正造営の96段の石



段に差し掛かる。石段の登り口で、酒井リーダーから今日のコース説明を受ける。仁王門（三門）から右の五重の塔、そして展望台に上がり横浜ラン



ドパークタワーや大山連峰を展望する。

- ・池上本門寺は日蓮聖人が1282年10月13日8時頃、61歳で臨終された霊跡。「長栄山本門寺」は「法華経の道場として、長く栄えるように」と日蓮聖人が名付け。昭和20年空襲で殆どが焼けたが、「五重の塔」「宝堂」「総門」は免れた。



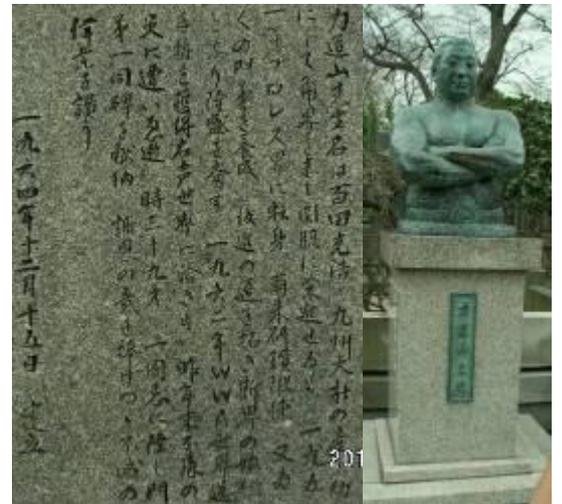
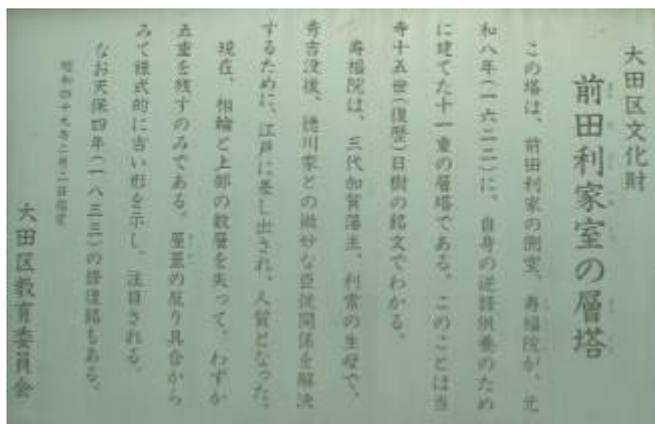
- ・五重の塔：15歳の徳川秀忠公が悪性の疱瘡に掛り、乳母岡部の局が池上に日参祈願し、その甲斐あって快癒した。秀忠は將軍になった後、そのお礼と武運長久を祈り、1608年建立した。桃山期の五重塔は全国で1基のみ。当初は大堂の右手前、鐘桜堂と対の位置に建てられたが、1614年慶長の大地震で傾き1701年5代綱吉公の命で現在地に移築、修復。



日蓮聖人750慶讃記念事業として平成9年～13年全解体修理された。初層のみ和様、二層以上を唐様。総高31m。木造心柱と彫刻部は檜、四天柱・側柱等の主要部は樺。・ピンクのジャノメエリカと白いユキヤナギが春の訪れをやさしく迎えてくれた。



- ・仁王門（三門）の前で記念撮影。
- ・紀州徳川家・加藤清正・力道山の御墓もある。
- ・この近く南馬込2丁目には、室生犀星・尾崎士郎・宇野千代・川端康成等の文豪が住んでいた



・池上梅園：本門寺の西側斜面に梅が植えられている。戦前まで半分は日本画家伊藤深水の自宅兼アトリエで「月白山荘」と呼ばれていたが、戦災で焼失。戦後築地の料亭経営者小倉氏の別邸であったが、没後遺族の意思で、庭園



として残すことを条件に東京都に譲渡。茶室「聴雨庵」は藤山愛一郎氏所有の茶室。茶室「清月庵」は伊藤深水のアトリエを設計した数寄屋建築の設計家、川尻善治氏が自宅に建てた離れ。梅花は終りであったが、65歳以上無料で入園してみた。金沢兼六園を思い出させる雪吊りや中庭の有る茶室が綺麗。

・第2京浜（1号線）を大尽坂・六郎坂を登り下りながら、この坂道は年取ると大変苦勞するだろうと話しながら、**子安八幡神社前、横須賀線・東海道新幹線のガード**をくぐり、30歳前半綱島居住時、終電終了午前様にタクシーで帰った思い出の**中原街道**を渡る。



・**小池公園**：以前釣り堀を池の公園にしたもので、湧水も出る様です。池に面した元釣り堀経営者の立派な邸宅を横目に洗足池に向かう。



・洗足池：日蓮上人袈裟掛けの松

日蓮上人袈裟掛けの松 由来
 弘安5年9月(1282年)日蓮上人が身延山から常陸国(茨城県)に湯治に向かう途中、日蓮に帰依していた池上宗仲の館(池上本門寺)を訪れる前、千束池の畔で休息し傍の松に袈裟を掛け池の水で足を洗ったと伝えられる。この言い伝えから、この松を袈裟掛けの松と称することとなり、また千束池を洗足池とも称されるようになったといわれる。
 天保期(1830～1843年)の「嘉陵紀行」によれば、初代の袈裟掛けの松は「枝四面におおい長き幹圍み三合がかり、高さ五丈あり」程あったと記されている。
 なお現在ある松は三代目であると伝えられる。
 御松庵



・鴨と戯れる



・勝海舟の墓

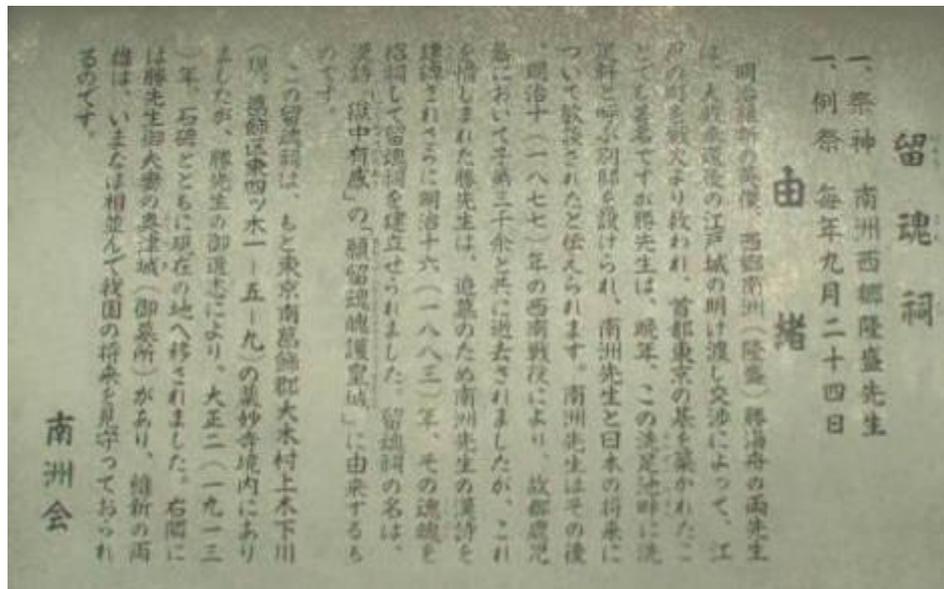


大田区文化財
 勝海舟夫妻の墓
 勝海舟、諱は義邦、初め麟太郎、後に安房または、安房と改め、海舟と号した。文政六年(一八二三)江戸に生れる。幕臣として万延元年(一八六〇)咸臨丸で渡米、海軍奉行となり明治元年(一八六八)江戸開城に尽力する。維新後は海軍卿、伯爵、枢密顧問官などを歴任し、漢詩、書が好き、高橋泥舟・山岡鉄舟とともに幕末三舟と称せられた。
 洗足池やその周辺の風光を受し、明治三十二年(一八九九)没後遺言によりこの地に葬られた。
 勝海舟の墓は現在は大田区中郷で次の歌をよまれた。
 中郷の野に
 勝海舟の墓を
 見れば
 我はにほひききと
 思ひたす
 我はにほひききと
 思ひたす
 我はにほひききと
 思ひたす
 大田区教育委員会

・西郷南州獄中の詩

朝に思遠き蒙り夕に焚院せらる。
 人世の浮沈は暗明に似たり。
 衆の光を回らざるも、焚は日に向上。
 若し運を開く無き意を推さむ。
 洛陽の知己皆鬼と有り。
 南嶼の俘囚衆生を竊む。
 生死何ぞ疑はむ天の附多きを。
 願はくは魂魄を留めて空城を護らむ。
 獄中感有り 南洲

・勝海舟と西郷隆盛・洗足池



・今日のコースはやはり初めてでした。まだボケていないのかな？と確信しましたが・・・。

・酒井副会長の午後からのウォーキングもリュックなしで参加

出来、今後も計画してはとの声も有り。約8 km、歴史とお寺と公園、そして大田区の住宅街探索の楽しい半日でした。詳しい説明と案内を賜りましたリーダー酒井副会長、そして道中楽しくダベリングウォークして戴いた皆さんに厚くお礼と感謝申し上げます。



・アフターウォーク

栗本さん、料理教室終え、渡辺さんの携帯に、多摩プラザから洗足池駅に向かうとの電話入る。栗本さん合流して、酒井・戸田・田村・仲・藁谷・渡辺・平林・栗本・伊藤の9人で、和気あいあい、最高の楽しいアフターウォークでした。改めて酒井副会長リーダーと皆さんに感謝！感謝！



・又のウォーキング再会を楽しみに！